

A

鈴木静村書

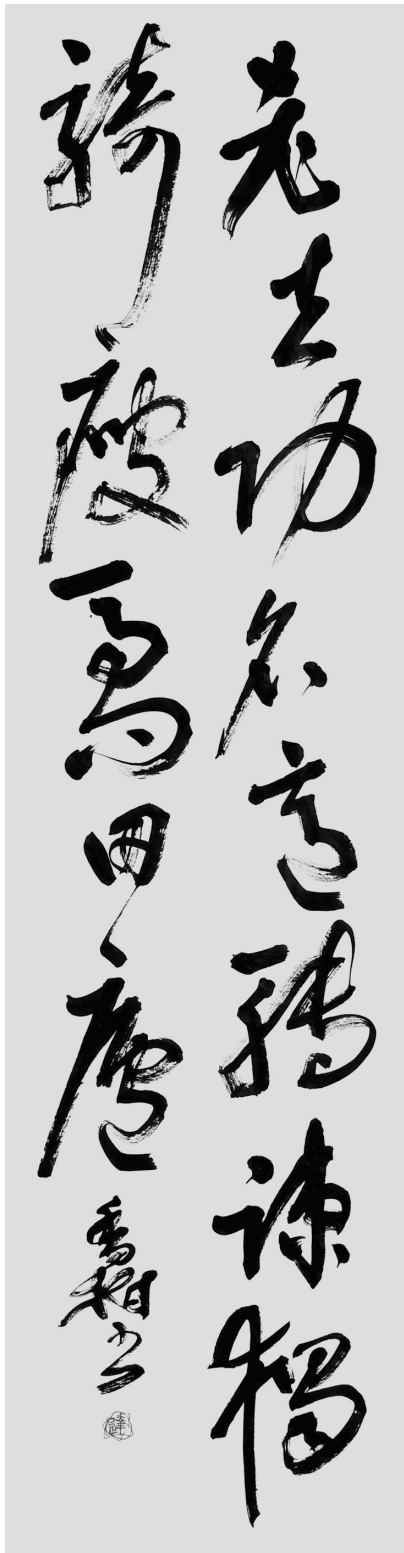
老去功名轉疎 獨騎瘦馬問田廬 (晁冲之)  
 老い去って功名意転た疎なり、独り瘦馬に騎して田廬を問う。



B

高橋香樹先生書

老去 連綿は繋げるより筆脈が大切。意 三点は軽快の中に「心」を。轉 筆脈線がうるさい。簡略に。疎 字体が多い。字典で精査のこと。瘦  
 これは私の好み、他の字体がよいかも。馬問 連綿線、問 一画目からの筆脈は重く失敗。廬 廬の左払いを末画とした筆順。



今回は草書で表現してみました。連綿・意連綿等により流れを表出。具体的には、一行目 老去功で左から右 功名で右から左 名意で左から右へ。二行目 騎瘦で右から左へ 馬問で左から右 田廬で右から左への流れを表出。草書のみを使用したので少し無理があるかと思いますが。訳：年取ると功名の気持ちは次第に薄れ、独り瘦せ馬に乗って長旅に出た。

予告 (六月二十二日締切)

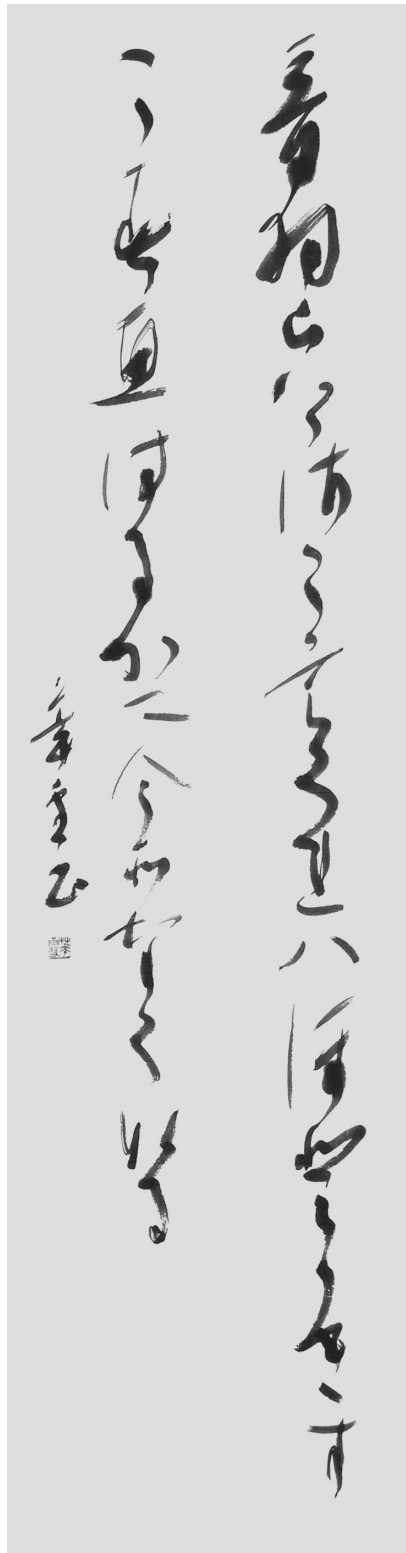
細數落花因坐久 緩尋芳草得歸遲 (王安石)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

A

平岡華雪先生書

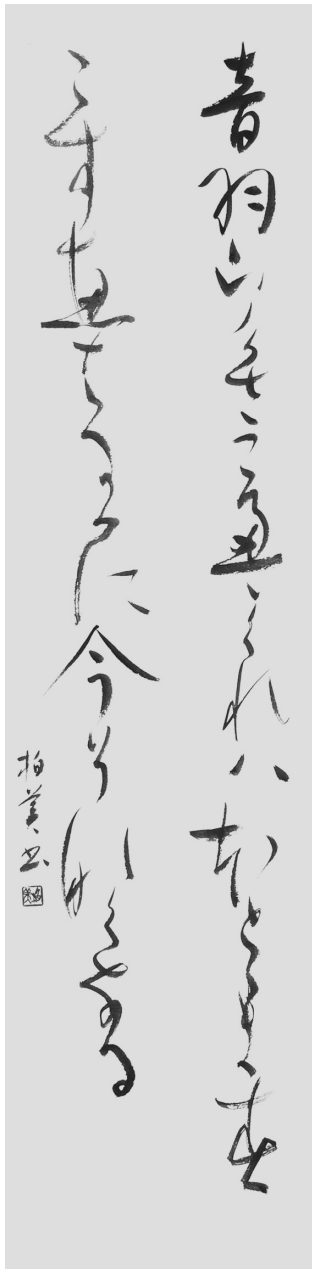
を（お）とは山（こ）けさ越（こ）えくればほとゝぎす（こ）梢（こ）はるかに今（こ）ぞなくなる（こ）（古今和歌集 紀友則）  
音羽山（け）介（さ）衣（え）久（く）連（れん）八（は）は登（と）ゝきす（こ）春（す）患（あ）はるかに今（こ）所（そ）な久（く）那（な）る



B

石島柏美先生書

音羽山（け）介（さ）衣（え）久（く）連（れん）八（は）は登（と）ゝきす（こ）春（す）患（あ）はるかに今（こ）所（そ）な久（く）那（な）る



学び方

前回と同じように布置、行の流れなどは基本型にそって二行書といたしました。  
「音羽山」は漢字の書き出しなので墨量をあまり多くしないように筆を立ててやや速筆で書きます。「こ盈久れ八」と「本とゝ支春」は緩急のリズムと抑揚を意識して続けます。「ほととぎす」は仮名の古筆に多く見られますのでこれらを参考に試作して自分の作品作りに役立てる事をお薦めいたします。  
左行の「こす患者る可に」は渴筆でおおらかに運筆します。終句は「今」で墨継し、右行へゆるやかに流すように書き収めます。  
助詞の「八」「に」は軽快に書きます。

紀友則は紀貫之の従兄にあたる。平安朝時代の歌人で三十六歌仙の一人でもある。家集に「友則集」がある。「古今集」に四十六首収められている。友則の歌には華麗さや技巧は少ないが古典的な格調をもち「小倉百人一首」にも「久方の光のどけき春の日にしづ心なく花のちるらむ」が選入されている。

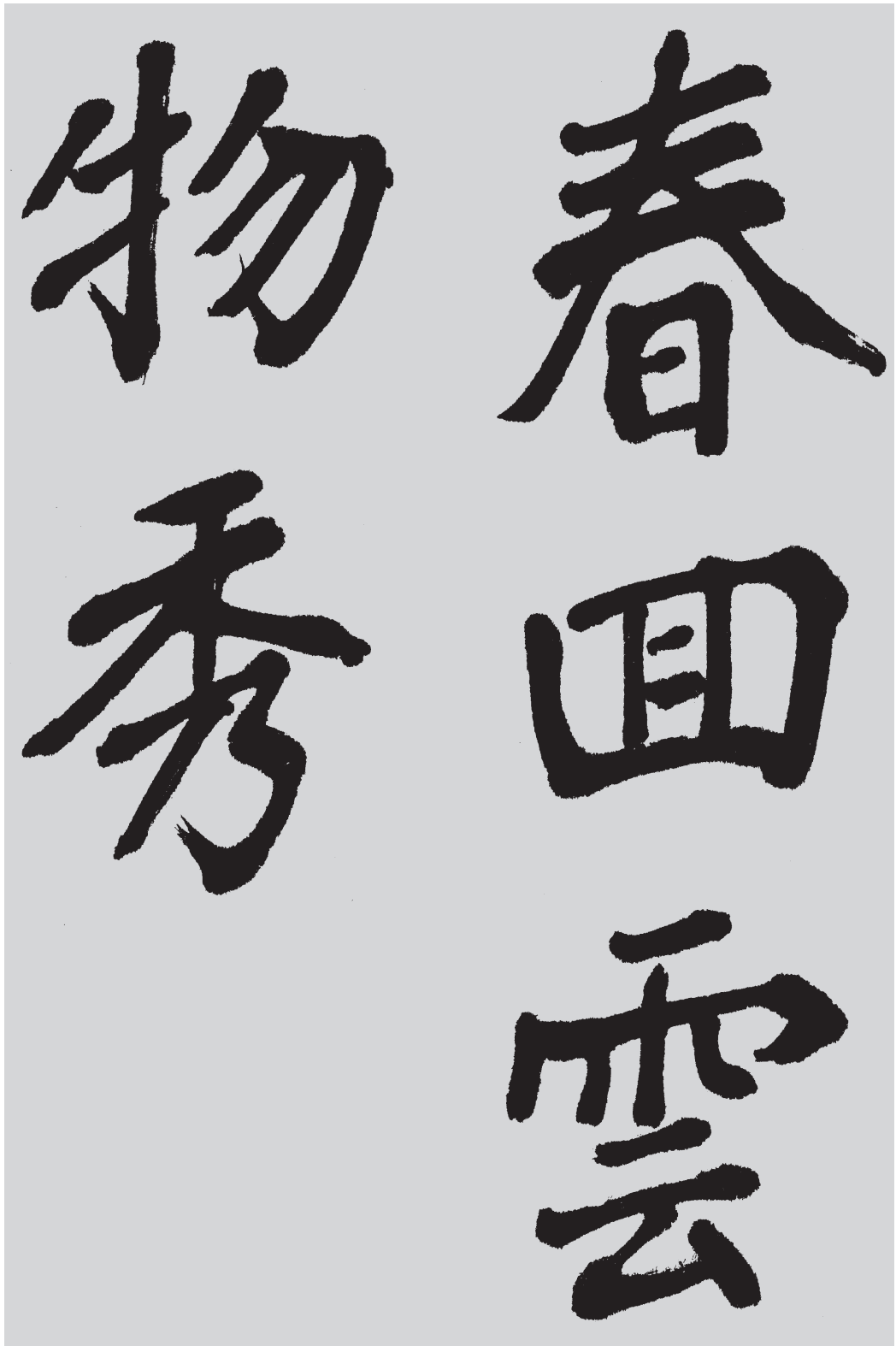
予告 (六月二十二日締切)

大空のふかき緑のちかぢかと迫るを覚ゆ山のいただき (尾上柴舟)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条かを○で囲み（1）と記入する。）
- ・二枚目からの出品（バーコード券の条かを○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料500円）

平岡華雪先生書

春回り雲物秀づ(唐澧)

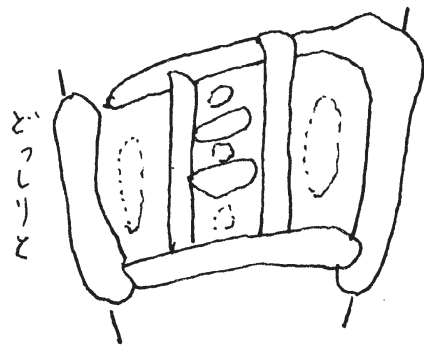
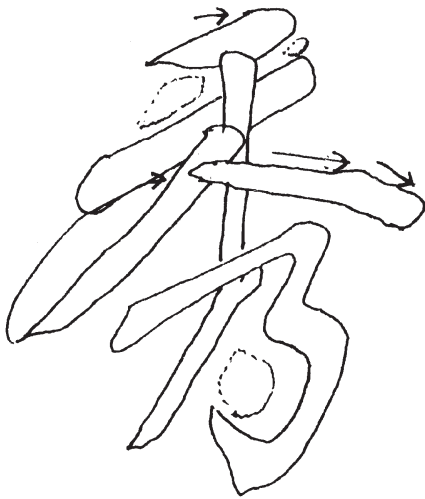
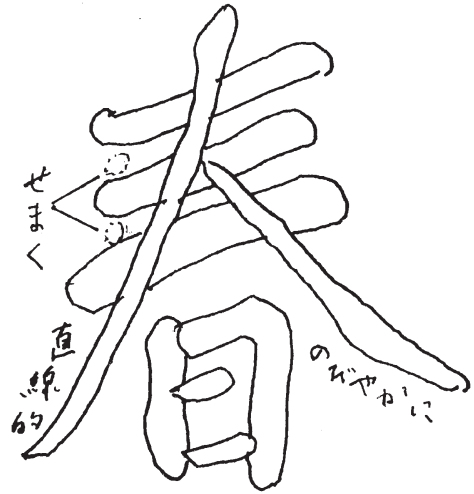
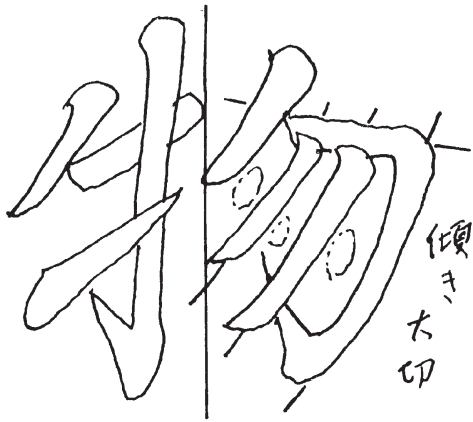


訳：雲物は景物に同じ。春がめぐり来て、景色が美しくなる。

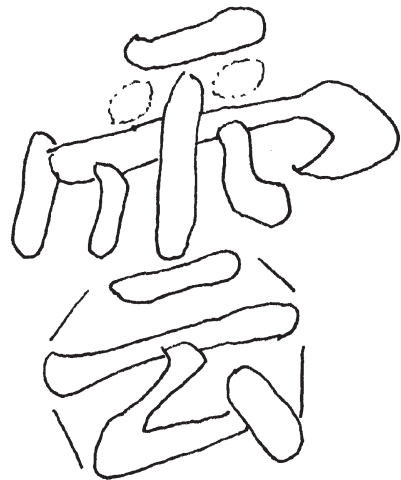
▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

- ①漢字部
- ②支部名または都道府県名
- ③氏名または雅号
- ④新

会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。

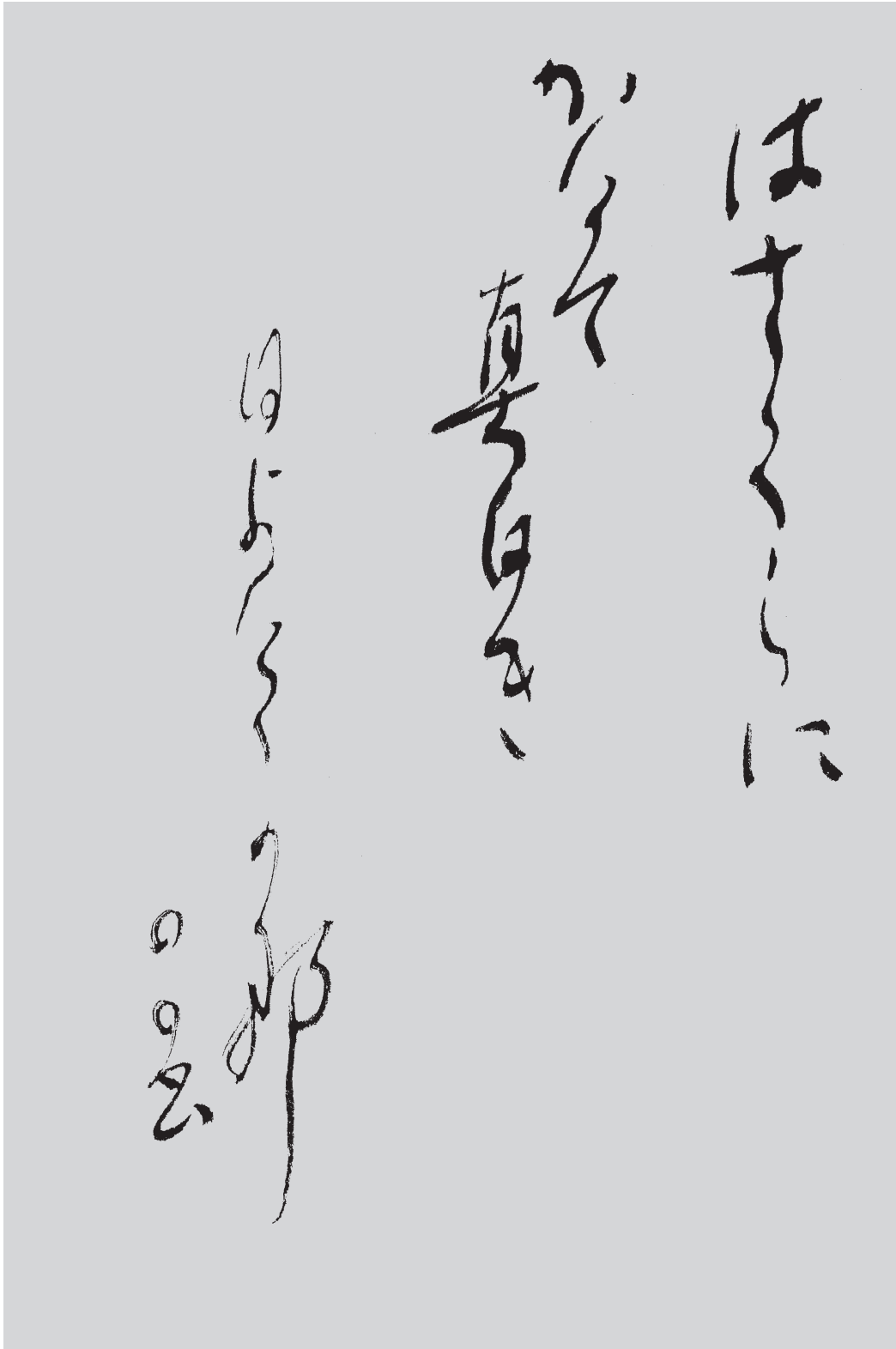


二行目の勝負  
 私と書いてみて、一行目は  
 なんとか、結構着いてまわ  
 るか、この二行目は、物から  
 気張るさくまう。「物」は  
 特に苦手、みなさんは、大  
 いのびやかに運筆を！



平岡華雪先生書

葉桜にかけて真白き日よけかな(鬼城)



▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

- ①かな部
- ②支部名または都道府県名
- ③氏名または雅号
- ④新

会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。

快い挑戦を

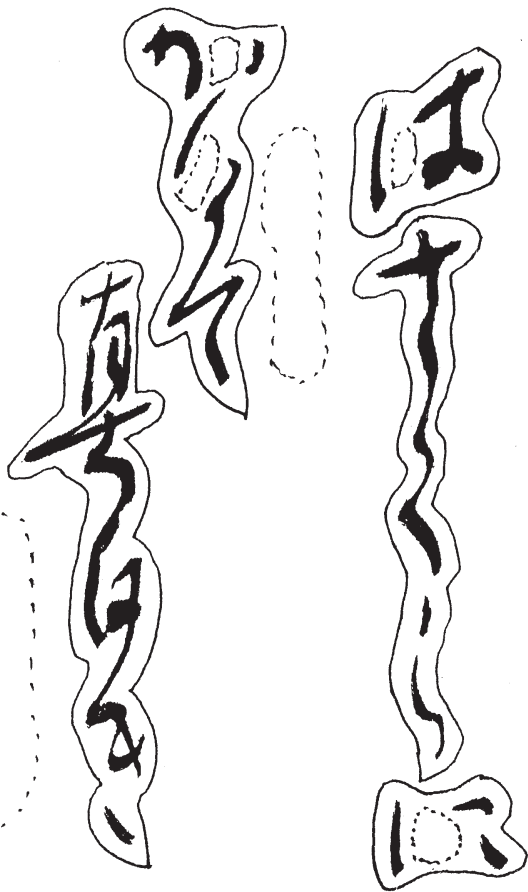
構成的には三群。

中央二行の主調。

筆圧（抑揚）の流況は注目のこと。

美雪と文室の時折試みの一筆書き。左行は筆を立て

細めはリズムに乗せ、「可那」と大きく、しかも末画を長めに、余白を形づくっている。ひびきんも、ひびとふびきりとの挑戦してみればわかる。



のーのー

星野春陽先生書

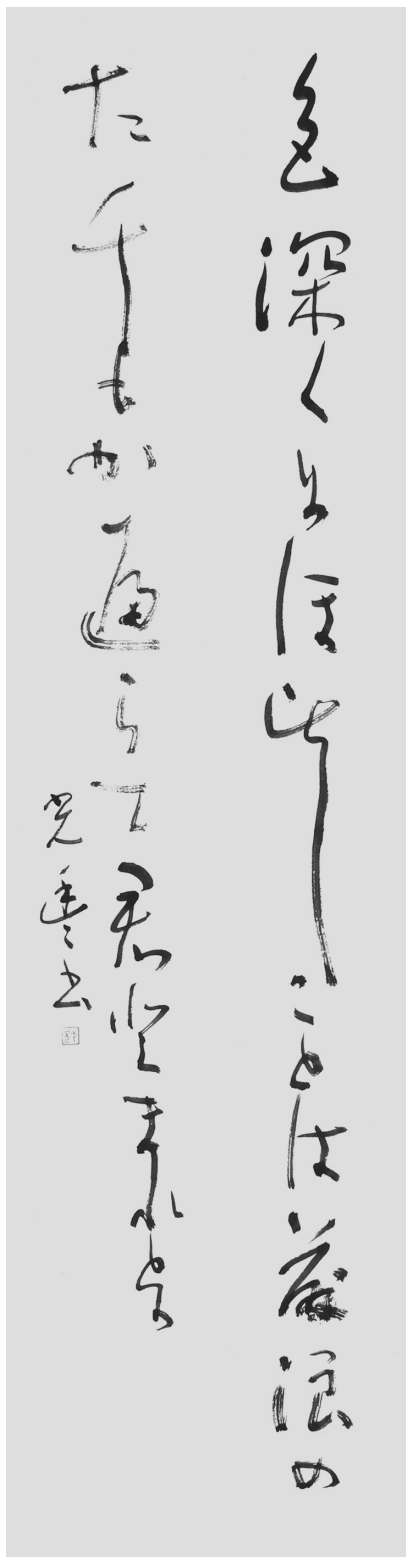
人情好悪花甘苦 世事榮枯草短長（王鏊）  
 人情の好悪は花の甘苦、世事の榮枯は草の短長。



訳：人の情としてすききらいは花の甘苦と同様で、世の事に栄えおとろえがあるのは草に短長があるのと同様である。

絹村光豊先生書

色深くにほひしことは藤浪のたちもかへらで君とまれとか（後撰和歌集 藤原兼輔）  
 色深く尔ほ比しことは藤浪のた千もか廻らて君登まれと可



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
  - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料500円）

北沢博舟先生担当 争坐位文稿 唐 顔真卿 (七〇九—七八六)

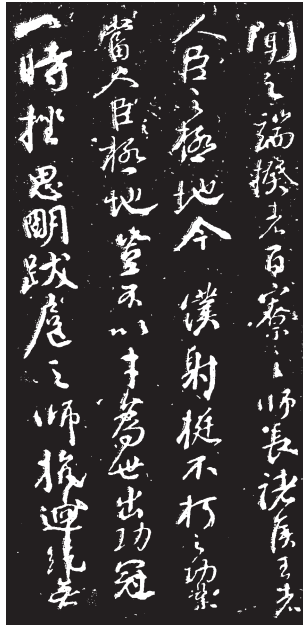
※条幅臨書部は出品料無料です。



僕射挺不朽之功業

僕射は不朽の功業に挺んで、

形式—半切タテ一行書 落款左行へ調和よく「〇〇臨」と書き入れる



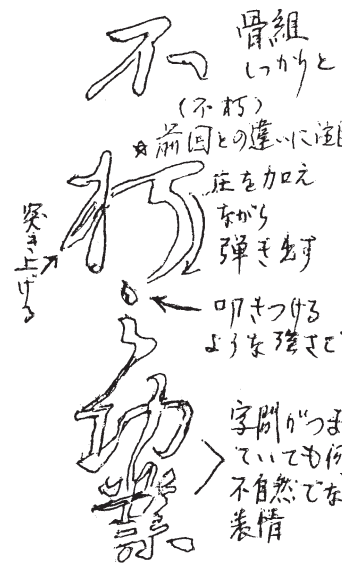
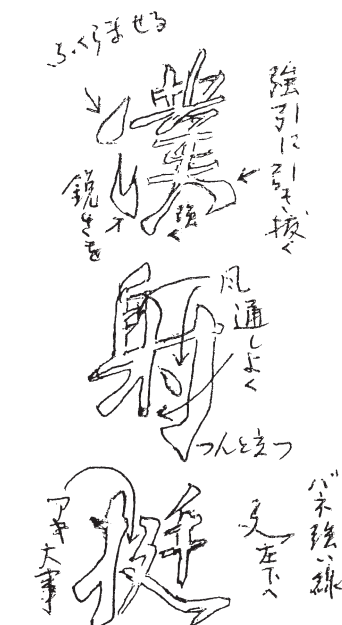
「臨書」考！

会長鈴木静村先生は臨書について、『臨書のススメ』（『墨』誌上）の中で「書の研究の真髄は『臨書』に始まり臨書に終わる」こと、「古典を手本として執拗なまで形意を学び摂る」こと、「創作の土台として臨書の絶対性は厳然として把握され、貫徹されるべき」と、さらに「氣韻生動への基底こそ古典の臨であろう」と等、強調されております。

「学び方」

大義の為には死をも恐れない気概あふれる顔真卿そのものの書（僕射宛）をとらえることが出来ればと思っております。

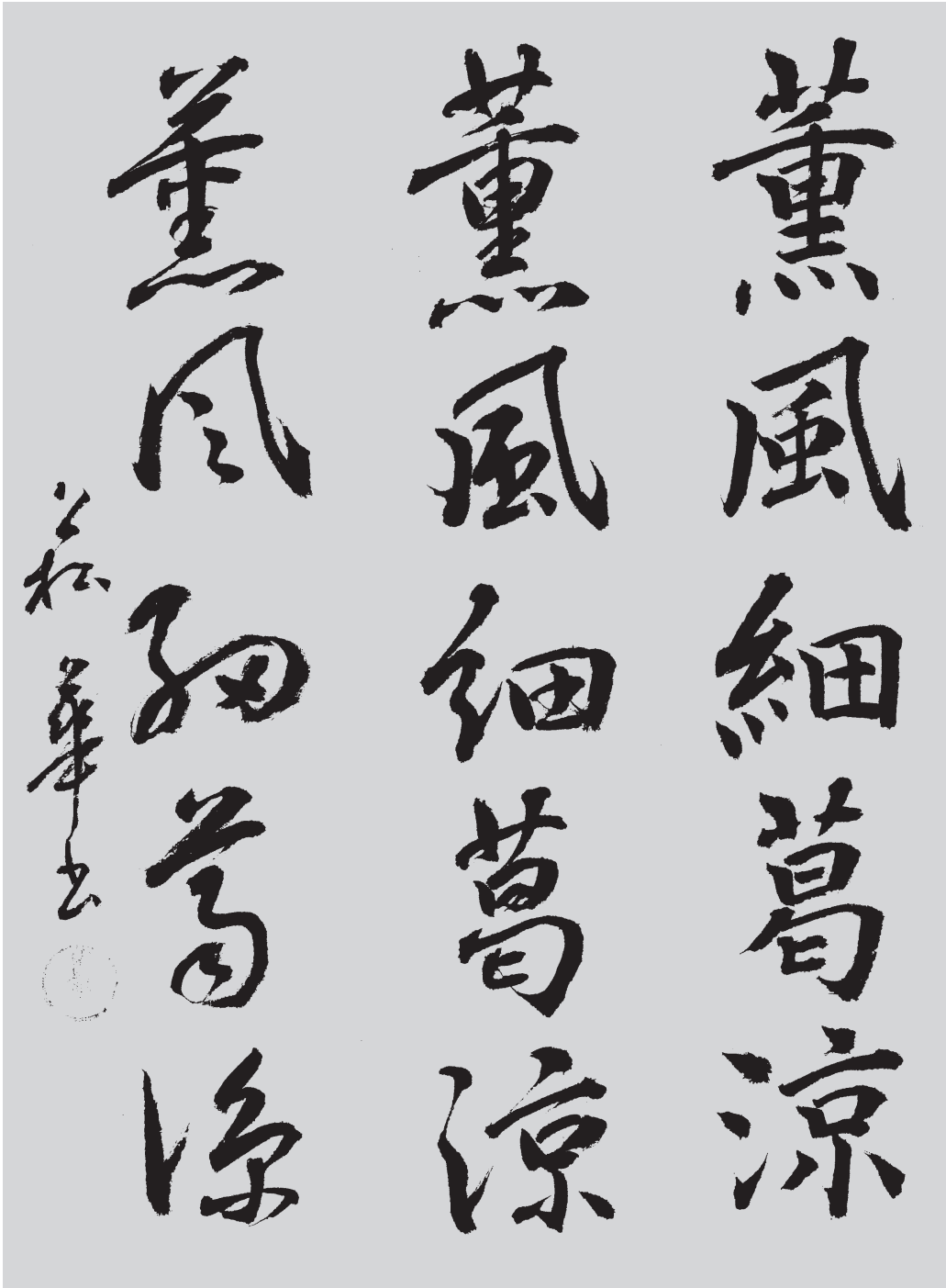
争坐位文稿には「僕射」が二十回、それぞれ違った表情で出てきます。ここにご参考までに掲載してみます（五種類）。





小暮 菘華 先生 書

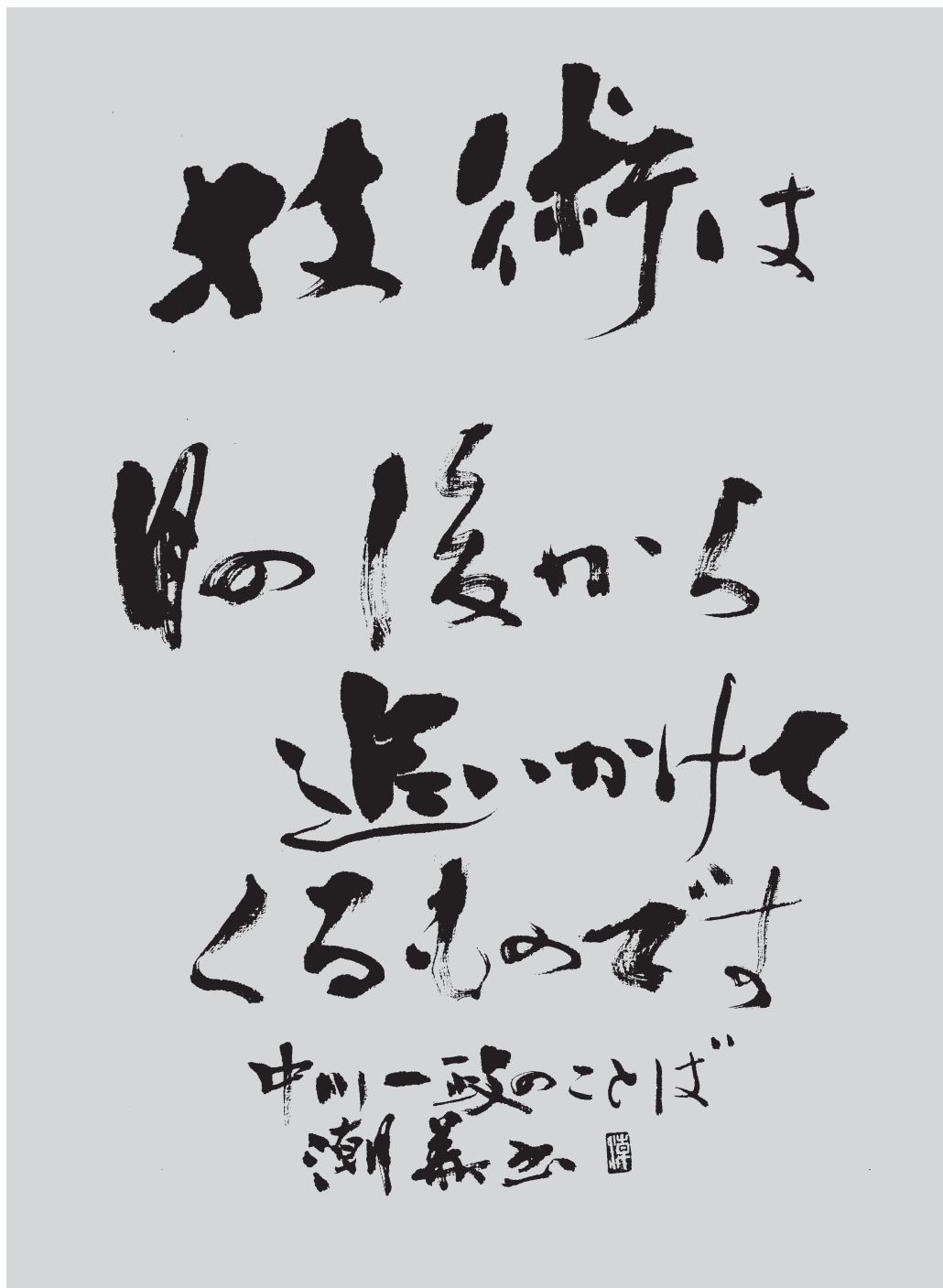
薰風細葛涼  
くんふうさいかづす  
薰風細葛涼し。



訳：初夏の風は心地よく細葛の衣服を吹いて涼しい。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。

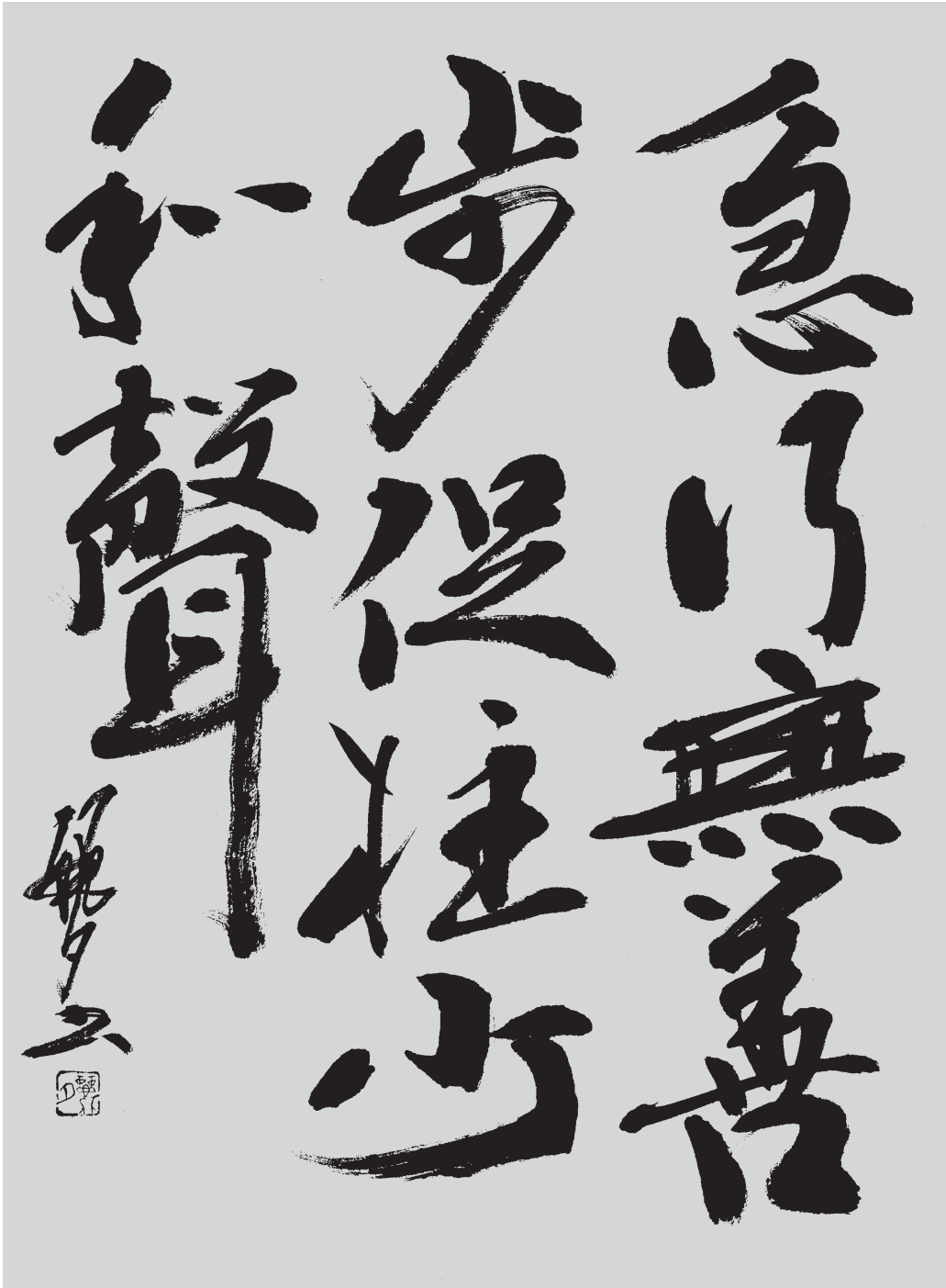
水  
貝  
潮  
華  
先  
生  
書



◆随意部参考として出品してください。

野田麗夕先生書

急行無善歩 促柱少和聲（王充）  
急行に善歩なく、促柱に和声少なり。



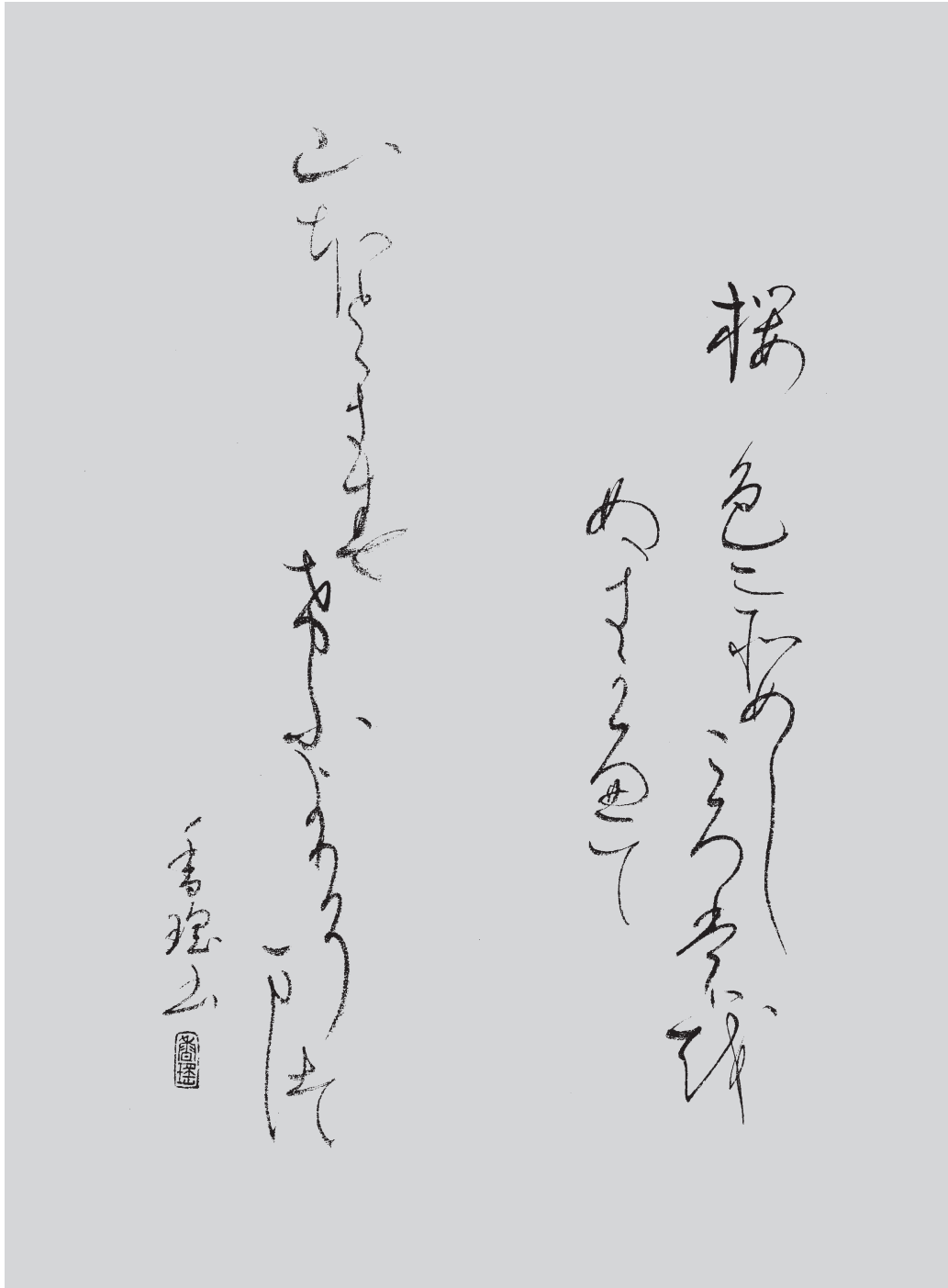
訳：急いで行けば決して善き歩調はない、急いで事をすれば善事は成らぬ。琴柱を急促にすればおだやかな音はでぬ。

添削又は手本希望者は本会規定により、野田麗夕先生（〒410-0045 沼津市泉町16-38）に直接お申し込みください。

内藤香瑶先生書

桜色さくらいろにそめし衣ころもをぬぎかへて山ほととぎす今日けふよりぞ待つまつ（後拾遺和歌集）  
桜色さくらいろ二所にめしころ裳も越をぬ支か可か遍へて山本はもとと支さ春すけ希けふよ利り曾そ万ま徒た

和泉式部



添削又は手本希望者は本会規定により、内藤香瑶先生（〒344-0112 春日部市西金野井338-59）に直接お申し込みください。

松浦江波先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

正教授 創作部門(自運作品、自由形式、硬筆用紙使用)で出品。審査料九〇〇円

父の口調は優しくバリトンの声  
には不思議な説得力があるように  
子供の頃は感じた。

城壁によって隔る楼蘭の人々は、  
その遠く見える道を豆粒のような  
人々と動物の隊列がもう長いこと  
続いていくのを見たい。

課題1 (初段階以上)

城壁に上っている楼蘭の人々は、その遠く見える道を豆粒のような人間と動物の隊列がもう長いこと続いていくのを見ていた。

「楼蘭」 井上靖

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (2) 段級欄は本人が記入(色は黒)。
- (3) はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 会員は無料・会員外は四〇〇円
- (5) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと。)

課題1 六〇〇円  
課題2 三〇〇円

課題1 石原春香先生 ㊦三七〇〇八七  
高崎市楽間町二二四ノ二一  
課題2 松浦江波先生 ㊦五二〇四三  
相模原市緑区橋本六ノ四ア一九

課題2 (初段階以下)

父の口調は優しく、バリトンの声には不思議な説得力があるように子供の頃は感じた。

「そして、アンジュは眠りにつく」

島田雅彦